

モンゴル国からの活動報告 15 合同調整会議の開催と3年間の助産分野の成果

池本めぐみ

国立国際医療研究センター 国際医療協力局 助産師

はじめに

JICAの医師及び看護師の卒後研修強化プロジェクトは、モンゴルと日本の2国間協力で実施されている技術協力プロジェクトです。2015年から2020年に実施された「一次及び二次レベル医療施設従事者の卒後研修強化プロジェクト（第1フェーズ）」に続き、2021年から2024年に「医師及び看護師の卒後研修強化プロジェクト（第2フェーズ）」が実施されています。2021年6月にモンゴル政府から助産師の卒後研修制度の強化に関する要望を受け、2021年11月に助産師の活動が正式に承認され、2024年12月までの3年1か月、活動しました。

今回は、3年間の助産分野の成果と合同調整会議（Joint Coordination Committee: JCC）の開催についてご報告させていただきます。

1. JCCの開催

JCCは、プロジェクトリーダーである保健省の事務次官のもとに開催される重要な会議で、プロジェクトの方針や今後の計画などの重要事項が検討され、意思決定される場です。本プロジェクトにおける最後のJCCが11月8日に開催されました。開会では、保健省のOchirbat事務次官とJICAモンゴル事務所の宮城所長が挨拶されました。その後、保健開発センターのOtgonchimeg部長がプロジェクトの成果を発表し、保健省の医療サービス局のGantuya局長がプロジェクト終了後の政府の人材育成方針を共有しました。事業の評価としては、プロジェクトの活動が順調に実施され、成果をあげ、医師、看護師、助産師の卒後研修の基盤が築かれ、強化されたと評価されました。また、プロジェクトの成果が継続されるように残された課題の解決策などについて協議さ

れました。



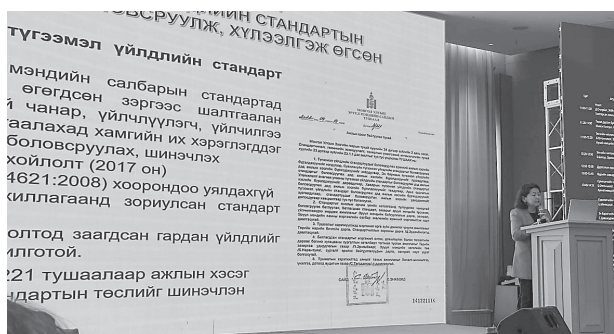
JCCの集合写真

2. 助産分野の成果

モンゴルの助産師の卒後研修の体制を構築し、助産師の能力の向上、社会における助産師という職業の価値の向上、母子・女子・女性やその家族への医療サービスや助産ケアの質の向上を目指し、法令環境の整備を含むさまざまな活動を行いました。

11月8日のJCCの後に成果発表会が開催され、医師、看護師、助産師の主要な関係者約140名が参加し、各分野の成果を確認しました。助産分野からは、モンゴル助産師会のDavaasuren会長と国立モンゴル医科大学のTsetsegmaa先生が発表されました。Davaasuren会長は、助産師の卒後研修や職業としての中核となるコンピテンシーの創出と保健大臣令（A451, 2023年）としての発出、助産師の職務記述書の改訂と保健大臣令（A289, 2024年）の発出、助産師の臨床指導者を養成するための研修の開発と導入により、助産師の臨床指導者127名と本研修の講師や実施を務めるファシリテーター10名を養成し

たことが報告されました。また、助産師が助産師の職務記述書にある業務を実現するために規則の整備が必要であることが明らかになり、2008年に作成されたモンゴルのすべての医療従事者が従う手技書であるMongolian National Standard (MNS)の改訂に関する作業を、保健大臣令によるワーキンググループにより2022年4月から活動してきました。保健省内などの人事異動などもあり時間を要していますが、2024年11月現在、MNSを主管する規格・度量衡庁の2か月にわたるパブリックコメントを終了し、保健省でコメントの確認・修正を行い、規格・度量衡庁に再提出される予定です。再提出後、技術委員会で議論され、承認を受ける予定です。この現状についても、Davaasuren会長と、保健省のGantuya局長から会場で共有され、多くの関係者が改訂を待ち望んでいることがひしひしと伝わってきました。



発表されるDavaasuren会長

Tsetsegmaa先生からは、助産師の5領域の専門研修の開発と実施し、5領域29名が修了（2024年6月現在）したことや新人助産師研修プログラムの開発と研修開始に向けた準備について話されました。新人助産師の研修は2025年1月以降に実施が予定されており、病院内の体制や臨床指導者の指導方法や内容の確認など多くの準備が必要です。「新しい取り組みのためにいろいろと課題も明らかになると予想されるが、モンゴル国内全体で課題を解決しながら、より良い研修を実施し、母子らにより良い助産ケアを届けられるように尽力していきましょう」と心強いメッセージが伝えられました。また、保健省や保健開発センターからは、これらが実現できるようにサポートしていくことが伝えられました。

3. モンゴルでの経験を経て

約4年間（活動を同定する期間を含む）の活動を振り返ると、モンゴルの助産の関係者のご支援・ご指導をいただいた日本の先生方の笑顔が浮かびます。いい時も、大変な時も、困った時も、いつも皆様と「モンゴルの母子・女子・女性とその家族により良い助産ケアを届ける」「モンゴルの助産師の職業としての地位の向上」を心から願い活動してきました。皆様と、この心がひとつだったとはっきりと感じています。助産師の卒後研修の体制構築のニーズを把握し、活動を同定、実施していくなかで、皆様と多くのことを話し合い、検討し、準備し、作り上げていくことを繰り返してきました。医師と助産師の立場や、現状の課題と進むべき道の困難さに紛糾することもありましたが、いつも最後にひとつの心に戻っていました。この強さと信念から、私も多くのことを学ばせていただきました。時に頑固な私に付き合っていたいただいていたと思いますが、このような経験をさせていただいたこと、皆様に出逢えたこと、ともに過ごせたことに心から感謝しています。本当にありがとうございました。



わたしの宝物（成果発表会の後にモンゴルの皆様との写真）

おわりに

日本助産師会や日本の関係者の皆様にご多大なご支援、ご指導を賜りましたことに深く感謝申し上げます。また、モンゴル助産師会のDavaasuren会長、理事の皆様、モンゴルの皆様、そして、ずっとそばで活動を支えてくださったアシスタントのOyunさんに深く感謝申し上げます。